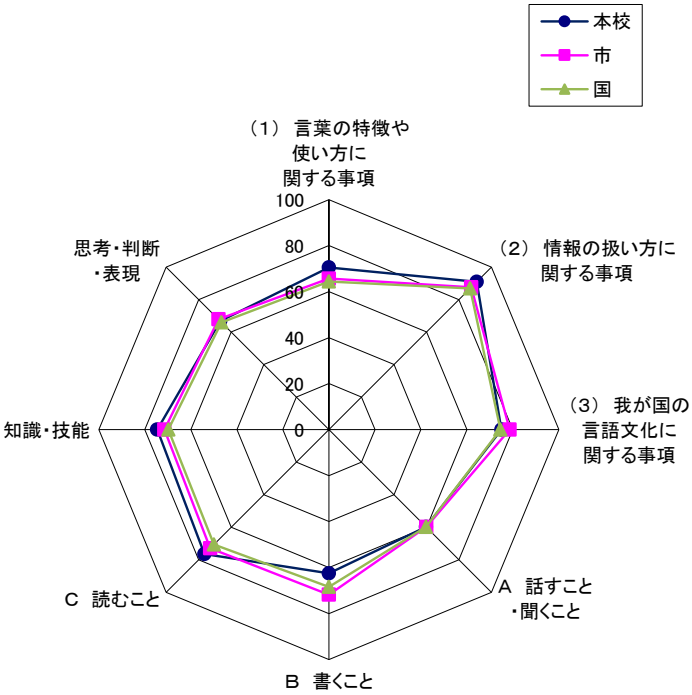


宇都宮市立桜小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	70.5	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	90.9	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.0	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	59.8	59.9	59.8
	B 書くこと	62.5	71.8	68.4
	C 読むこと	76.5	72.9	70.7
観点	知識・技能	74.6	71.5	69.8
	思考・判断・表現	66.8	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○国や市の平均正答率を4ポイント近く上回っており、特に漢字を正しく使う設問では、国や市の平均正答率を10ポイント近く上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・定期的な漢字テストに向けた自主的な学習が身に付いてきているので、継続していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	○国や市の平均正答率を、国は4ポイント、市は3.3ポイント上回っている。	・引き続き、情報を読み取り、正しく分析する力を身に付けられるように指導し、様々な形式の問題を解くことにより学力の向上を目指す。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●市の平均正答率より3.6ポイント下回っている。読書の記録の振り返りに適切なものを選ぶ設問では、無回答が6.8%見られた。	・日常的に読書に親しませる機会を増やし、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付かせるようにする。
A 話すこと・聞くこと	○国や市の平均正答率とほぼ同等である。 ●話し方の工夫に関する設問に課題がみられる。	・多様な表現活動を取り入れ、グループやペアでの話し合いを通して、自分の意見を述べたり、相手の意見に耳を傾けたりする機会を多く取り入れる授業展開を設定する。
B 書くこと	●市の平均正答率より9ポイント近く下回っている。特に、文章の空欄に入る内容を取材メモを基にして書く設問で、条件を満たして書き表した正答率は市や国の平均を下回っている。	・条件を満たして自分の考えを書き表すことができるような学習を増やすとともに、事実と感想、意見の違いを区別して書く指導を行う。
C 読むこと	○国や市の平均正答率を、国は5.8ポイント、市は3.6ポイント上回っている。	・単に文章を読むだけでなく、文章から読み取れる情報や作者の意図を深く理解し、自分の考えと結び付けることができるように、多様なジャンルの読書を推進したり、読解力向上のためのワークシートを用意したりする。